



聖明福祉会報

第311号

令和7年2月

〒一九八一八五三一 東京都
 青梅市根ヶ布二ノ七二二
 聖明福祉協会
 編集発行人 本間清郷
 (〇四二一八)二四五七〇〇
 印刷 有限会社米澤

創立 70 周年のお祝いのお花をいただきました、心から感謝申し上げます。

- ・株式会社千修様
- ・社会福祉法人成仁会 理事長山崎和彦様 (当法人理事)
- ・四天王寺大学名誉教授 慎英弘様
- ・青梅順心眼科クリニック様

(令和7年1月30日)

巻頭言

聖明福祉協会の歴史を辿る

三代目理事長 佐藤三蔵

昭和四十年に本会の理事に就任。三代目理事長(就任日は昭和四十四年三月二十七日、退任日は昭和五十七年四月十四日(ご逝去))。医学博士。訪問医療の多忙の中、国際ライオンズクラブのガバナーとして、盲導犬の普及、献血運動などに大きな貢献をされるとともに、国会議員の迫水久恒(さこみずひさつね)や花柳流家元坂東三津五郎丈(ばんどうみつごろうじょう)らとともに、本会の発展に力を注がれました。

昭和三十年代は戦後の復興期であり、経済の成長・発展著しい時期でした。国際ライオンズクラブが各地に誕生し、社会奉仕やボランティア活動が定着し始めた頃です。佐藤三蔵先生

は、「家内は内科、僕は外科(そとか)です。」とおっしゃって、ホームドクターとして活躍されました。ライオンズのガバナーとしても、講演会や結成されたクラブの祝辞のためなどに全国を飛び回っておられました。そのような中であって、先生は聖明福祉協会の役員として積極的にリーダー的役割を果たして下さいました。話術に優れ、話題の豊富な先生は、ユーモアを交えながら心に染み入る話をされました。英語も流暢でした。そして何よりも、温かいお人柄には多くの人が傾倒しておりました。几帳面で、聖明園の行事や式典には必ず出席され、あの穏やかな綺麗な発音で、語り掛けるように話をされたものです。

三蔵先生は、元々は教師として子供の教育に携わっておられました。貧困などにより病院にかかることのできない児童生徒のあることを知り、一年発起して東京医科大学に学ばれました。剣道も師範の腕前で、礼儀正しく、誰にもあの温容は心に刻まれていたことでしょう。

昭和四十四年、二代目理事長

の芳賀芳賀津二彦先生の辞任により、三蔵先生は三代目の理事長に推挙されました。それ以来一層責任を感じられ、ある時など厚生省の斎藤昇(さいとうのぼる)大臣のところへ挨拶に伺う際、私を従えて下さり、私も大臣と親しくお会いすることができました。後年、斎藤昇大臣のご令息斎藤十郎(さいとうじゅうろう)先生も厚生大臣を務められました。その斎藤十郎先生は、大臣退任後全国社会福祉協議会の会長に就任され、隔月ごとの会合でお目にかかる機会がありました。その折に、斎藤十郎先生は「三蔵先生は我が家のホームドクターで、父の時代から家族ぐるみでお世話になっていました。」とおっしゃっておられました。このように、三蔵先生は非常に人脈の広い方だったと、今更ながらに思い返されます。

その一 ライオンズクラブを基盤として多くの方々から国会議員に出馬を要請されました。洋菓子店の甘人(現在の株式会社アマンド)の創業者滝原健之(たきはらけんじ)もその一人でした。滝原氏は一九四六年に中国から帰還し、同年、新橋の闇市で甘味処「甘人」を開店し大成功、三蔵先生を師と仰ぎ、友人としてその人格に傾倒して終始一貫三蔵先生を物心両面で支えました。佛所護念会教団を挙げて選挙に臨み、福祉関係も、全国盲人福祉施設連絡協議会(以下「全盲老連」と略記)をはじめ老人福祉関係者、障害者を問わず、当選を確信して支援しました。結果は残念ながら、数万秒の差で次点となってしまいました。支援者の落胆ぶりは我が事のように、心は沈んでしまったものです。当選されていたら厚生行政も変わっていたらと想像すると、残念でなりません。なお三蔵先生は、全盲老連の任意団体時代の初代会長でもあります。その二 本会の理事長在任中に、創立記念日の大きな行事がありました。(一九六九)『十五年

のあゆみ』社会福祉法人聖明福祉協会に記述されている三蔵先生のご挨拶の一部を、次に抜粋します。「価値あるものは滅びない」という言葉はわたくしの最も愛する格言であります。人間にしろ事業にしろ、それが価値あるものであるならば、いかなる困難や危機にも負けることなく立派に存在し続けるであります。う。わたくし自身ははなはだ微力菲才(びりよくひさい)な者ですが、この価値ある事業の発展のために自信をもって奉仕のまことを捧げる決意であります。」このように、先生は本会の理事長として真剣に取り組んで下さいました。そうした強い信念を持った先生が、昭和四十九年四月二十日、秩父宮妃殿下お成りのもと、創立二十年ならびに聖明園開園十周年記念式典を挙行了したところ、開会に当たり次のようにご挨拶をされました。「本日、かしこくも常陸宮妃殿下のお成りを賜り…」

司会者は慌てて三蔵先生に「秩父宮妃殿下ですよ」と伝えました。先生は早速妃殿下の前進み、最敬礼して「大変失礼をいたしましたこと、平にお許しください。」とお詫びをされました。このとき先生は、「普段あまり緊張しない方ですが、今日は緊張のあまり、大変ご無礼をいたしました。どうぞお許し下さい。」と冷静に出席者の皆様にも語りかけ、最後までお勤めをされました。このように先生は、礼節さも身に着けた文武にたけた人物だったのです。なお三蔵先生は、東京医科大学独自の献体の会として、東寿会(とうじゅかい)の創設にも関わり、OBとして同会の初代副理事長に就任されました。その三 三蔵先生は各地で講演活動をたくさんされました。その中で、先生が武人の逸話として披露された、次の話が心に残ります。それは第二次世界大戦のとき、オーストラリアのシドニー湾攻撃に特殊潜航艇艇長として参加した松尾敬宇(まつおけい)中佐とその母親まつ枝さんのお話です。シドニー湾攻撃で、松尾中佐の艇は、魚雷発射管の故障により攻撃が叶わず、艇を

敵艦へ体当たりさせることで魚雷を爆発させようと図りました。ところがこれも失敗し、松尾中佐は部下とともに自決しました。

戦後になり、軍神松尾中佐の遺品がオーストラリア海軍記念館に陳列されていることが報じられ、オーストラリアの軍隊が中佐の母親まつ枝さんを探し出し、同国に招聘しました。高齢となったまつ枝さんが空路シドニーに到着したとき、儀仗隊（ぎじょうたい）が出迎えました。儀仗隊員たちは、どこの高官が来るのかと見守っていると、飛行機から降りてきたのは年若い女性でした。しかし隊員たちは、礼儀を持ってまつ枝さんを出迎えたといいます。

その時の思いを、まつ枝さんは次のように和歌に詠みました。外つ国（とつくに）の 熱き情けに 応えばやと 老いを忘れて 勇み旅立つ

この話は聴衆に感動を与えました。平和日本になってこのような話はどう受け止められるかわかりませんが、かつての日本は国家のため、民族のために己を

捧げる武人としてのほまれ、誇りを持っていたものです。今日ではなかなか理解の出来ないこともかもしれません、語り掛ける三蔵先生は涙されながら話されたものでした。

その他、三蔵先生は、プロレスのリングドクターとして晩年テレビに映ったことがあります。これも先生の人脈の広さと武人であることの表れでしょう。

終わりになりますが、このような先生も「百歳への挑戦：心臓病・血圧・がんの知恵」という著書を上梓されました。しかしあの頑健なお体が、静かに癌が忍び込み、昭和五十七年四月十四日、逝去されました。茨城県稲敷郡阿見町にある母校東京医科大学の霞ヶ浦病院（現東京医科大学茨城医療センター）に入院中、数回お見舞いに行ったことも、鮮明に私の脳裏に刻まれています。改めて先生を偲び、聖明園が今日のごとく発展整備されたことをご報告したいと思います。（会長 本間昭雄）

紙面の都合により「歴史を紐解く」は次号に掲載いたします。

聖明園曙荘

同行援護制度の説明会

かつての利用者は、現在の住民票のある青梅市に障害者福祉サービスの申請をされてきました。しかしながら、二〇二三年四月より制度が変わり、それ以降に曙荘に新規入所された方は、前の住所地で障害者福祉サービスの申請することになりました。

現在、曙荘の八割ぐらいの皆様が障害者福祉サービスを青梅市から受給されていますが、残り二割の皆様は、曙荘入所前の市区町村から障害者福祉サービスを利用されています。そのため利用者より、同行援護制度はどのようなことに利用出来るのか改めて説明をして頂きたいとご要望があり、十月二十一日に説明会を開催。

演者は、NPO法人八王子視覚障害者福祉協会 理事長および公益社団法人 東京都盲人福祉協会 副会長、多摩ブロック

庶務をされている宮川純様。同説明会の取材のため、毎日新聞社 点字毎日部 記者 谷本仁美様も同席。

当時者団体として活動されてきた宮川様は、当事者が必要としている同行援護のサービスを柔軟に提供して下さっており、そのような事業所があることがわかったことで、利用者も安心したことでしよう。当事者自身が事業を起こし、先頭に立って制度を発展させてきた力強さを、宮川様の言葉の端々に感じることができました。加えて利用者は、いつも読んでいる点字毎日の記者さんが来られたことを、誇らしく思われたようです。

（会長秘書）



グランプリコンサート
二〇二四



十一月十七日、トッパンホールで「グランプリコンサート二〇二四」が開催されました。二〇二〇年以降、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、利用者の参加は叶わずにいましたが、今年は4年ぶりに曙荘利用者3名、ボランティア4名、職員三名の合計十名が参加。演奏者は「大阪国際室内楽コンクール二〇二三」で優勝されたとのことで、会場は満席で、室内楽の調べに拍手が鳴りやま

ず、アンコールにも応じて下さいました。利用者の皆様も大満足の半日でした。

(会長秘書)

本沢さんの焼き芋を
楽しむ会

十一月二十七日(水)、秋晴れの爽やかな青空の下、聖明ホール前にて「本沢さんの焼き芋を楽しむ会」を行いました。会長のお知り合いの本沢様より、立派なサツマイモを段ボールいっぱいに頂きました。それらサツマイモをアルミホイルに包み、ドラム缶を縦に割ったようなバーベキューコンロに薪と炭を焚べて、焼き芋を行いました。

コンロの中では真っ赤な炭と薪がパチパチと良い音を鳴らし、お芋に火が通ると、美味しそうな香りが漂い食欲をそそります。コンロを取り囲むように皆様には椅子に掛けて頂き、焼き芋を楽しみました。焼きたてのお芋は、甘くホクホクで、普段は少食の利用者さんも、大きな焼き芋をまるまる完食されていました。

(曙荘 生活相談員)



眞理さんコンサート



十二月七日 金曜日 聖明ホールにて、眞理ヨシコさんコンサートが開催されました。毎年、たくさんの利用者の皆さんが一年に一回のこの日を、とても楽しみにしています。今回は「あなたの愛唱歌は、なん・で・す・か」と題してアニー・ローリー、庭の千草まどみちお作品のぞうさんなどを歌っていただき、透き通った歌声と素敵なピアノの音色に、会場が魅了されました。そして、



後半の「ご一緒に歌いましょう」では、みかんの花咲く丘、青い山脈、いい日旅立ち、故郷などを眞理先生と歌いました。ふだん、あまり歌わない方、お声をださない方も楽しそうに、懐かしそうに歌っており、職員の私たちも、そのご様子に胸が熱くなりました。華やかで、心のこもったコンサートを開催していただき、眞理ヨシコ先生、ピアニストの田中修二さんには、心より感謝を申し上げます。

(曙荘 生活相談員)



十二月二十日(金)クリスマス会が行われました。はずれのな抽選会ですが、お好みのものがあたるかどうか一喜一憂、歓声があがります。今回はロビーで喫茶店を開店、飲み物をお出ししました。クリスマスの飾りで彩られたロビーで、温かいコーヒーや紅茶、甘酒を飲みながら、一足早いクリスマスを楽しまれていました。

(曙荘生活相談員)

クリスマス会



聖明園寿荘

クリスマス準備本番まで

今年はクリスマスの帽子をリハビリ職員と共に作成しました。コツコツと生地を切る、縫



い合わせる作業は完成まで一体どれくらいかかるのだろうか、先が見えませんでした。しかし、皆さん、十二月二十四日のクリスマス昼食会までに入居者分の帽子を仕上げ、サイズもぴったりでとてもお似合いです。

(寿荘 生活相談員)



力強く!



三月に百歳のお誕生日を迎えられます。力強く、だるまに眼を書いて頂きました。だるまには、入居者の方々の「自宅に帰りたい、主人に会いたい、これ以上体が悪くなりませんように、健康で過ごせますように」など思

い思いのお言葉を職員が代筆しました。そして、一月十二日青梅のだるま市でお焚き上げを行い、また新しいだるまを購入。一年の始まりを迎えます。

(寿荘 生活相談員)



季節の移ろいを感じて

今年はや暖冬と言われている中で、聖明園にも季節の移ろいややってまいりました。法人敷地が広く、四季折々の花々が楽しめる散歩道。車いすの方も歩ける方も、機能訓練を兼ねて外の新鮮な空気を吸いながら外散歩を楽しんでいただいています。特に寿荘の前には真っ赤に染まったもみじと、これから咲き誇るサザンカが同時に楽しめる

スポットがあります。視力を有する方は真紅の競演を眼で見ても楽しみ、見えない方は花に触れて秋から冬を感じていただきました。これから一年で最も寒い時期になり、吐く息も白くなりますが、いつまでも元気で散歩ができるように、日々の生活の中でも体を動かしていただきたいと思います。

(寿荘 機能訓練指導員)



開園記念昼食会



十二月一日に寿荘は開園四十二周年を迎えました。翌日十二月二日に開園記念昼食会を行いました。献立は、握りずし、清まし汁、天ぷら盛り合わせ、

菜の花のなめ茸和え、マンゴーケーキをご用意させていただきました。皆様のご希望を伺う度に「握り寿司が食べたい」という声でした。ご希望が多かったマグロ、サーモン、蒸しエビを厨房職員の手作りでお出しすることができました。念願のお寿司を喜んで召し上がっていただき、小食の方も好物のお寿司とケーキを完食されました。「美味しかった」とお声もかけていただきました。皆様の笑顔が眩しい華やかなお祝いになりました。

(寿荘 管理栄養士)



聖明園富士見荘

どんど焼き



今年もお正月の伝統行事「どんど焼き」を一月十一日(土)に行いました。ご利用者様と一緒に正月飾りやお守り等をお焚き上げして一年の無病息災を祈願しました。お焚き上げの周りに皆さん集まり甘酒を飲みながら物思いに燃えていくのを眺めておられました。お焚き上げ中には職員や利用者様が大きな和太

鼓を叩き、心に響く良い雰囲気となりました。参加しない方や参加出来なかった方にはユニットで甘酒、饅頭、水ようかん等を召し上がりました。「一般家庭ではなかなか難しいので、これからも続けてほしい」「今年も無事に過ごせるように祈りました」「今年も行事に参加出来て良かった」「娘の分も祈りました」等、ご自身や家族の事を思っておられました。これからは皆様の祈りが叶うように伝統行事を行う大切さを改めて感じました。

(富士見荘 生活相談員)

非常食の試食会

聖明園では災害発生時に備え非常食を備蓄しています。アルファ化米やレトルト食品・フリーズドライの汁物などを用意しています。今回非常食の入れ替えに伴い、各ユニットでフリーズドライの「にゅうめん」の試食会を午後のおやつ時間にを行いました。

「そうめんっぽくない」や「まあまあだな。非常食だからこんなものか」・「災害発生時に温かいものが食べられるのはうれしい」などいろいろなご意見をいただくことが出来ました。

災害発生後しばらくは満足していただけるお食事をお出しすることとは難しいと思いますが出来る限り早い段階で温かい物や皆さんが安心できるものをお出しできるように今後も非常食の内容を検討していきたいと思えます。

(富士見荘 管理栄養士)



富士見荘ナイトサファリ



富士見荘の駐車場からマイカーのハイビームで旧富士見荘跡地から観音様周辺を照らすと野生動物の観察が出来る日があります。観察が出来た日を、富士見荘ナイトサファリと個人的に名付けており、ナイトサファリでは、カモシカが倉庫裏のフェンスを飛び越える姿や、鹿の群れ(二頭〜八頭)は、食事をしつつ観音様の裏に隠れたり、ウサギのつがいも食事をしますが、庭にいる鹿の近くまで走り回り、(鹿はウサギを追い払わない事が分かりました。)、狸はすぐに隠れてしまいます。入

居者の皆さまに、寝る前の楽しみとしてこの様な内容をユニット懇談会でお話させて頂いております。(主任ケアワーカー)

お手紙の紹介①

謹啓 寒中御見舞い申し上げます。

先生におかれましては御清栄にて新年を迎えられました御事心より御喜び申し上げます。本年一月三十日聖明福祉協会創立七十周年記念誠におめでとうございます。更に曙荘開園六十年更に更に各界先生方より寄せられた玉刊文集感恩報謝の上梓と三重の御慶事と続き心より謹んで御祝い申し上げます。

私共にまで玉書をお贈り頂き厚くお礼申し上げます。一生の宝物として拝読させて頂きます。小生も来年は年男九十六才を迎えますが、先生を見習い頑張りたいたいと思います。まだしばらく厳しい寒さが続きます

す。先生にはくれぐれも御身御自愛下さり公務に御活躍下さる様お祈念申し上げます。 謹白
一月二十八日 鎌田定郎

お手紙紹介②

このたびは聖明福祉協会の創立七十周年心よりお祝い申し上げます。

亡き夫もこの日を共に喜んでいることと思えます。九十六歳というお歳とお身体の状態を考えましても本当にこの日を迎えられることがどんなに素晴らしいことかと命の儚さを思い知らされたからこそそう思います。これから無理はなさらずにますますのご発展をお祈り申し上げます。

令和七年一月二十四日 岡本里絵

表彰

おめでとうございます

日本盲人

社会福祉施設協議会
(令和六年十一月二十九日)

十年勤続

小田有輝(曙荘)

大島美香(富士見荘)

矢部郁子(富士見荘)

佐藤琢巳(富士見荘)

第十九回 片岡好亀賞

(令和六年十一月十六日)

本間律子(曙荘)

第十八回

塙保己一賞 大賞

(令和六年十二月二十一日)

本間律子(曙荘)

今後の活躍を

期待いたします



ボランティア芳名（順不同）

令和六年十月から令和七年一月までに活動を予定くださっていた方々です。

（敬称略）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和二年の二月よりボランティアの活動の休止をお願いしております。本来であれば活動を頂いております方々を含め、ご紹介させていただきます。

一. クラブ活動援助

（マッサージ）、平原サカ江（行事手伝い）

【曙荘】

植草由利・星野ふさ江・栗原法子・伊藤光恵（陶芸）、西村千秋・打越洋子・溝添茂子・狛守美代子・坂本昭子（籐編み）、小松志子（器楽）、菅原弘貴（御詠歌）本田正美（コーラス）

【富士見荘】

青梅キリスト教会（聖書朗読）、たんぼぼ（朗読・紙芝居）、青梅傾聴ボランティアうさぎ（傾聴）

【寿荘】

三. 慰問・交流・交歓会

峯岸初枝・双木かつ枝・伊原久子（民謡）、小松志子（コーラス）

昭和会館混声合唱部・眞理ヨシコ・田中修二（音楽会）、小泉清人・続木力・久我邦興・久我總子（演奏会）

【富士見荘】

福本信・田中洋子（歌）

四. 中学生体験学習・職場訪問・研修

二. 利用者に対する援助

なし

【曙荘】

五. 助成金

たんぼぼ（朗読）・みすず会（朗読）・心話の会（傾聴）・高野美令・松尾純子・北島なな子・青梅フリーメソジスト教会（聖書朗読）、ともしび会（縫い物）、青梅ボランティアの会（繕い物）、国立音楽大学学生（音楽療法）、千葉陽子・千葉和夫（介護予防）菊池玉雲（講談）

昭和会館様・霞会館様・銀行協会様から助成金をいただき、電動ベッドを八台購入いたしました。ご支援を賜り、誠にありがとうございました。

【寿荘】

たんぼぼ・みすず会（朗読）、金丸久子（話し相手）、金丸弘志



今日も明るく楽しく心豊かな日々
～利用者の生活～



お正月お雑煮



昭和会館コンサート

聖明園曙荘



【冬物衣類販売】
よいお買い物はできたでしょうか？



【毎日の日課】
職員と共に元気にラジオ体操。

聖明園寿荘



願いを込めて叩きます



クリスマス会の楽しいひと時

聖明園富士見荘